

生田緑地の生物多様性保全のあり方検討

1 生田緑地の生物多様性保全に関わる取組の概要

生田緑地において、市は、都市計画事業として用地を買収することで、生物多様性の基礎となる緑を保全してきました。一方で、市が公園として取得してからは、園路や広場の整備・管理に取り組みましたが、里山として利用されてきた二次林や田んぼ等の管理は概ね自然の遷移に任せていたことから、雑木林や湿地など里山としての維持管理等については、生田緑地の雑木林を育てる会、特定非営利活動法人かわさき自然調査団、生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会等の市民協働により維持・保全されてきました。

このような経緯から、生田緑地の生物多様性については、市民協働により自然環境が保全されるとともに、植物や生き物等の調査についても絶え間ない市民の努力により実施されてきました。

2 生田緑地の生物多様性保全の現在の資源や魅力

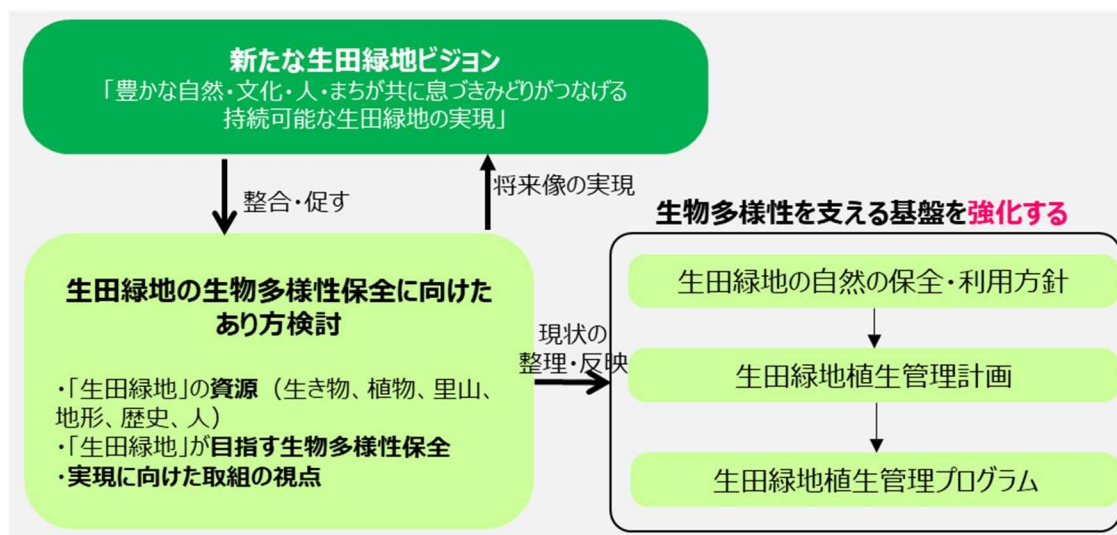
- (1) 市民の力・有識者の支援
- (2) 植生管理に関わる多様な取組の蓄積
- (3) 生田緑地の地形・地質
- (4) 活動団体が協議調整できる場（生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議）
- (5) 生物多様性に関する取組の発信力

2 生田緑地の生物多様性保全が直面する課題

- (1) 生物多様性の保全に係る活動の持続性確保
- (2) ナラ枯れを起因とする環境変化への対応
- (3) 気候変動に伴う自然災害の高頻度化や激甚化
- (4) 緑地内外で進む取組への対応
- (5) 情報発信の多様化

3 あり方検討の目的

本あり方検討については、生田緑地ビジョンの改定において課題となった「生物多様性の危機」を踏まえ、その対応に向けた検討に着手し、生田緑地の生物多様性を未来に引き継ぐための仕組みづくりを行うことを目的とします。



4 生田緑地の生物多様性保全のあり方の策定イメージ

「生田緑地の生物多様性保全のあり方」が目指す取組内容のイメージ(案)

- (1) 興味・関心
- (2) 体験
- (3) 学習
- (4) 歴史・文化
- (5) 持続性確保

5 スケジュール

令和5年7月 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議へ情報共有
生田緑地マネジメント会議生田緑地ビジョン改定プロジェクトに報告
川崎市公園緑地整備計画等推進委員会（生田緑地ビジョン）にて意見聴取
（生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議との調整）

令和6年4月 改定する生田緑地ビジョンの「施策の基本方向」に取組を記載予定